

# 高 山 如 大 地

— 第129号 —

発行人

相良 晴美

発行所

富山市総曲輪2丁目8-29 真宗大谷派富山教務所

編集

富山教区如大地編集委員会



第1期 東北地方太平洋沖地震災害  
「被災者支援のつどい」

第2期・第3期 東北地方太平洋沖地震災害「被災者支援」  
宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」は、全ての門信徒各位の篤いご信心に支えられつつ、五月二十八日の第三期法要結願日中をもって終了いたしました。団体参拝計画の当初より、門信徒の上山において事故が無いように、また、上山が意義あるものになるようないと、スタッフ一同、心を致し準備を進めてまいりました。

しかし、「東北地方太平洋沖地震」の発生とともに一変し、「心を致し」たその心が問われました。その中で、「被災者支援のつどい」として、また、その願いを引き継いだ法要として、第一期から第三期法要是厳修されました。課題は山積していますが、多くの参加者の方の上山し法要に会い得た喜びの声をお聞きする度に、ご苦労をいたいたスタッフ一同の努力に感謝致しております。今後は、その喜びの声に応える歩みが望されます。

東北地方太平洋沖地震発生から三ヶ月を過ぎて、マスコミなどの「被災者復興支援」の声も少しづつ小さく聞こえるのは私だけでしょうか。「絆」・「繋がり」・「思いやり」・「共に」等、どれだけの言葉を聞いたことがあります。

いち早く、若手の寺族有志が仙台教区仏教青年会との小さな繋がりから、「富山教区災害復興支援ネットワーク」を立ち上げました。「とりあえず十年はやってみよう」。私は、その設立の願いを聞いて、有縁の方々と共に協力させていただきます。又、活動の願いが教区の教化事業に反映されればと願っています。

＊＊＊ いまから、ここから、私から＊＊＊

# 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

今、南無阿弥陀仏のもと、共に人間回復の一途を歩まん

第一期 三月十九日から二十八日まで 御遠忌法要の中止し

東北地方太平洋沖地震災害

「被災者支援のつどい」を開催

第一期 四月十九日から二十八日まで  
第二期 五月十九日から二十八日まで

東北地方太平洋沖地震災害 被災者支援

## 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要を厳修

### ■第一期御遠忌法要の中止し、「被災者支援のつどい」を開催

宗祖御遠忌法要厳修年となり、いよいよ御遠忌法要をお迎えしようとしていた矢先の三月十一日、未曾有の大地震「東北地方太平洋沖地震」が発生した。マグニチュード九・〇を超える大地震と大津波による災害、そして、予断を許さない福島第一原子力発電所の事故の極めて深刻な状況がもたらされた。そういった中、宗派は第一期御遠忌法要を中止し、東北地方太平洋沖地震災害「被災者支援のつどい」を開催した。

「つどい」は、大谷暢顕門首による「開会のことば」に始まり、「正信偈・念佛・和讃」が同朋唱和で勤められた。続いて内局挨拶では、災害被災者へのお見舞、第一期御遠忌法要中止につきご迷惑をおかけしたことへのお詫び、宗派としても全力を挙げて救援活動を行っていくことが表明された。また、原子力発電所の危機的状況からも、聞いかけられているのは、まさに我々であることを押さえられた。そして、「今、私たちは何をなさねばならないのでしょうか。この「つどい」において、あらためて親鸞聖人のお声に耳を傾けたいと思います。《中略》被災者の方々に思いを馳せ、悲しみを共にする



ことを願って、いよいよ「人間回復の一一道」を証していただきたいと思います」と結び、「被災者支援のつどい」開催の願いが伝えられた。その後、災害救援本部からの報告や、各方面からのメッセージの紹介があり、法話をいただき閉会となつた。

## ■第一期・二期

### 被災者支援 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要厳修

第二期、第三期については、「被災者支援のつどい」の開催を受け、「被災者支援 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要」が厳修された。

このたびの震災を目の当たりにし、私たち宗門に関わる者は、被

災された方々の悲しみに寄り添うことが支援の第一歩であること、そして、そのことが宗祖親鸞聖人のご精神に適うものであることを確かめ、ここにおいて「人間回復の一一道」が証しされていくであろうことを表明し、御遠忌法要が厳修された。

五月二十八日の結願日中法要では、池田勇諦氏にご法話をいただいた。その中で、このたびの七百五十回御遠忌法要は、宗憲改正後初めての御遠忌法要であることや、七百回御遠忌法要後に興った

「真宗同朋会運動」が五十年目を迎えるとしていることに触れられ、そこに、大谷派宗門が御遠忌法要をお勧めすることの使命があることを語られた。

予期せぬ大震災、そして原子力発電所の事故から、大谷派宗門が、宗憲改正と真宗同朋会運動の精神に立脚し、歩みを進めていかなければならぬという促しを受けている、そのような宗祖御遠忌であるということを、改めて感じさせられることである。

## ■教区讚仰事業・御遠忌教化の取り組み

三月十三日から五月二十八日まで、富山教区讚仰事業として、阿弥陀堂素屋根二階において、パネル展「廃仏毀釈—富山藩の廃仏毀釈と民衆の念仏」が実施された。これは、二〇〇八年五月厳修の教区・別院御遠忌法要の記念事業として取り組まれ、昨年発行された



『振起—富山藩の廃仏毀釈と民衆の念仏』を基に、大幅に増補された年表及び関連写真を掲示したもの。廃仏毀釈という仏教弾圧から歴史を紐解いたわけであるが、宗門が国家権力とどのような関係にあったのか、どのような方向を向いて歩んできたのかが明らかにされている。(八頁に別報)

また、「昆布ロードコンサート—知っていますか？琉球王国、そして沖縄を！」が、五月十四日に開催が予定されていたが、このたびの震災の状況を鑑み、八月二十八日に延期された。

## ■「各組 宗祖親鸞聖人に遇うつどい」の開催

富山教区においては、宗祖御遠忌をお迎えすることの指針として「門徒と寺とのつながりを考える—宗祖御遠忌を機縁として」が掲げられており、その具体的取り組みとして、各組において「宗祖親鸞聖人に遇うつどい」が開催された。法要参拝前と参拝後の二回開催されるもので、御遠忌教化事業の中心的な取り組みでもある。

(八頁に別報)

## ■富山教区 宗祖親鸞聖人御遠忌団体参拝

### 教区団体参拝専門部会で第一期団体参拝について議論

富山教区においては、二〇〇八年十二月に教区宗祖御遠忌委員会が組織され、団体参拝専門部会により教区団体参拝の準備が進められてきた。最終的に教区全体では、二、七七六人の方に教区団体参拝として宗祖御遠忌法要に参拝いただいた。

この教区団体参拝が実施されるにあたり、第一期御遠忌法要の中止が決定され、「被災者支援のつどい」の開催が表明された局面において、大切な確かめの場が開かれた。三月十五日付の宗派からの急告を受け、富山教区の団体参拝の対応を確かめるべく、団体参拝専門部会は、団体参拝専門部会部員、第一期法要引率責任者及び副引率責任者、参拝該当寺院に急報し、三月十六日午後、第一期法要への参拝についての協議の場が開かれた。(四十七名参加)

## 宗祖御遠忌法要富山教区団体参拝者数(教区団体参拝)

期	参拝日	法座名	9組	10組	11組	12組	13組
第1期 (3月)	19日(土)	初逮夜	83	102	70		
	26日(土)	逮夜		145	67	54	54
	27日(日)	日中	104	112	61		
第2期 (4月)	21日(木)	日中			69	67	221
	24日(日)	逮夜	63	107	110		
	27日(水)	結願逮夜		115			166
第3期 (5月)	20日(金)	逮夜		46		141	146
	26日(木)	日中	38	72		156	38
	28日(土)	結願日中			147	222	
各組合計人數			288	699	524	640	625
教区合計人數					2,776		

※各組で実施された教区団体参拝の最終人数（一般団体参拝は含まない）。

※宗派全体では第1期が72,400人、第2期が98,900人、第3期が105,400人が参拝し、讃仰期間や諸行事を通じ、延べ約50万人が真宗本廟に参拝した。

者が少量ずつ持ち寄るなどして、宗派の災害救援本部に納められた。団体参拝参加者においても、宗祖御遠忌と被災者支援が一つとなつた仏事であると感じているだろうか。

その場においては、「御遠忌法要でないのなら教区団体参拝は中止すべきである」、「ご門徒のお参りしたいというご意思を尊重すべき」、また「自肅ということを考えるべき」など、様々な意見が出された。結局、教区としての考え方を確定するには至らなかつたが、ご門徒のご意思を確認し、尊重すべきとの意見が表に立ち、各団体に最終判断が委ねられたこととなつた。それとともに、最後に「被災者支援のつどい」では、ご門首には挨拶をいただき、その中で宗祖親鸞聖人には触れていただきたいとのことや、自肅ということで宗祖御遠忌と言えないのであれば、富山教区が取り組んでいるような「宗祖親鸞聖人に遇うつどい」といった名称で開催すべきではないかなどの声をいただいた。波乱を招き、ご門徒の方々には大変ご迷惑をおかけしたが、御遠忌法要のあり方について、こういった緊張感のある議論の場が持たれたことは、富山教区にとって大きな意義



第十二組 照善寺住職  
轡田 普善

# 教区内から寄せられたご感想

第二期法要は、東日本大震災の発生を受け、参堂列もなく、樂も入らないものでした。出仕者の目で見れば華やかさがなく、物足りない法要でした。したがって、団体参拝には一抹の不安をもつて臨みました。

しかし、団体参拝席で全国から集まつた多くの人々とお参りをしてみて、宗祖と私達の「つながり」ということを考えさせられました。私を含めてこの場に集われた人々は、たまたまこの場にいるのではない。宗祖との「つながり」によって、この場を賜っているのだと感じました。検討中の教区・別院の御遠忌も、宗祖との「つながり」を確かめられる法要になればと願っています。

第九組 本覺寺住職 藤岳 貴之

三月十一日に発生した東日本大震災により、大きな被害がもたらされました。全国でイベントの中止や延期の報道発表が相次ぎました。そのような中、第九組においても、御門徒さんからは、「御遠忌法要に予定通りにお参りできるのか」という問い合わせが多数寄せられ、御遠忌法要を心待ちにしておられる気持ちが伝わってきました。本山では当初、法要次第を変更して御遠忌法要を執り行うとさ

れていました。しかし突然、第一期御遠忌法要が中止となり、「被災者支援のつどい」としての開催が決定され、富山教区においても大変な混乱に陥りました。

御遠忌法要の中止ということで、果たしてどれだけの方に団体参拝にご参加いただけたのか。第九組では、急遽お一人お一人に確認をしたところ、ほとんどの方から「御遠忌法要が中止になったのは残念だが、仕方がない。それでも本山で親鸞聖人にお参りさせていただきた」という声をいただきました。全体としては数人の方のキャンセルはありましたが、参加された多くの方々から感謝のお言葉をいただきました。

この「被災者支援のつどい」の参拝を通して、改めて、「出遇い」「つながり」ということを感じさせられたとともに、たくさんの課題を突き付けられたのではないかとも思いました。

### 第九組 速成寺坊守 耳浦 薫

住職から宗祖御遠忌法要の団体参拝のお誘いを受け、参加することになりました。親鸞聖人について何か勉強したいと思い、大和デパートで行われていた「親鸞展」を観覧し、自分なりに理解して、御遠忌参拝の準備をいたしました。

今回は、門徒さん達との一泊二日の団体参拝で不安もありましたが、行く先々で皆さんとお話しすることで打ち解け、宿泊先の琵琶湖グランドホテルに着くころには、最初の不安な気持ちを忘れて、楽しんでいる自分がいました。

今回の御遠忌法要のテーマである「宗祖としての親鸞聖人に遇う」の「遇う」を調べてみましたが、「会うことがあり得なかった出会い」とありました。御遠忌法要に参拝しなければ、門徒さんや九組



### 第十組 寶蔵寺門徒 平田 清

「今、いのちがあなたを生きている」。二〇〇六年六月、第十組門徒会お待ち受け奉仕団で上山したときに、御遠忌のテーマをいたしました。意味深長なお言葉だなと思いながら、二〇一年の御遠忌に向かってスタートいたしました。

三月十九日の上山を楽しみにしていましたところ、突然、三月十一日に東日本大震災が発生し、世の中が一変いたしました。出発間際になって御遠忌法要が中止となり、「被災者支援のつどい」となりました。何か拍子抜けのような感じもしましたが、法要がなくとも親鸞聖人に遇うことに意義があると思い、三月十九日に本山に向けて出発しました。親鸞聖人と向き合って、「つどい」の開始時間を待っているうちに、いろいろ自分の思いが体を駆け巡りました。もし今度の災害がなく予定どおりに御遠忌法要が行われていたら、この席で何を考えただろうか。きらびやかなお勤めに手を合わせ、それなりに感動を覚え、そしてその後が面倒である。俺こそげに自惚れ、その傲慢な根性が鏡に映る。そんなことを思ったとき、体がぞつと身震いがおきました。そのうちに時間となり「つどい」が進めら

の住職の方々と交流を深めることができなかつたと思ひます。これも親鸞聖人に遇えたことに繋がるのではないかと思いました。これからはもっと親鸞聖人のことを知り、教えを学んでいきたいと思いました。

ご縁があつてお寺にお嫁に来ましたが、日々の生活に追われ、お寺に嫁いだという特別な意識もないまま、一年がたちました。今回、本当に素敵な経験をさせていただいたと感謝しています。ありがとうございました。

れていく。やっぱり「聖人」に遇いにきて良かつたなあと思い、胸が熱くなりました。

第十一組 稱永寺住職 蟻川 達

宗祖御遠忌法要がいよいよ始まる一週間前の三月十一日、マグニチュード九・〇の想定外の地震と津波が、岩手・宮城・福島を襲いました。

突然の新聞紙上の「真宗大谷派御遠忌法要中止」の活字に、「なんで中止なんだ」と叫びました。十数年前から、全国の門信徒の方々に淨財と団体参拝を呼び掛け、一生懸命準備してきた御遠忌法要が中止。「宗祖としての親鸞聖人に遇う」ことを願ってきましたはずです。予定通り実施することこそが御遠忌の意義であり、テーマ「今、いのちがあなたを生きている」に適うことだと信じています。東日本大震災の被災者への励ましと支援にもなり、親鸞聖人への報恩感謝になります。

三月二十七日の御影堂・比叡山横川・琵琶湖湖畔は本当に寒かったです。御遠忌が「被災者支援のつどい」となり、法要の内容も変更されました。私が、私にとっては御遠忌法要であり、宗祖としての親鸞聖人に遇うことができました。一生の宝物です。団体参拝の折、京都は雪がちらつく日でした。今も、あの寒さを思い出しては「身の引き締まる思い」をしています。

第十一組 教正寺門徒 中橋 敏則

思い立っていける身あってこそそのご縁、団体参拝の折は何が何で  
もと意気込んでおりました。しかし、大震災の発生は、心に潜む物



見遊山の思いを搔き消してくれたと思います。京都に向かう車中の話題からも、被災者の痛みを気遣つてか、皆さんが重い気持ちを引きずつての出発であろうことが伺えました。

さて、団体参拝当日の法要の内容は、聖人のおこころに適うあり方として、「被災者支援のつどい」に変更されました。しかし、私にとって参拝の意義は、全く変わりないものでした。翌日は、かねてから一度は訪れてみたいと願っていた比叡山の横川と西塔のにな

第十一組 常德寺住職 北條秀樹

要並びに宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌お待ち受け法要で、ある先生は「真宗の危機は人間の危機」とまで仰いました。前を訪う姿が後を導くことではないでしょうか。自らが問われる上山でありますた。

初夏を思わせる汗ばむほどの気温となつた五月二十日、宗祖御遠忌の逮夜法要に参拝させていただくご縁を結ばせていただきました。この法要には、全国から約六千人の参詣があつたそうです。

このたびの法要は、三月十一日発生の東日本大震災で被災された方々に思いを馳せ、悲しみを心に刻みつつ、私たちの念仏申す生活を今一度問い合わせ大きな意義深い内容だったと思います。多くの予定されていた儀式・行事が自粛されました、「同朋唱和」によるお勤めが、かえって重みのある声楽を感じました。私たちが頼りと

してはいたものが、如何に不確かなものであつたかという身の上の事実に直面いたしました。五濁悪世の今という時代社会の中で、いよいよ親鸞聖人が顕かにされた本願念佛の教えが、眞の人間回復の一助となるよう歩んでまいりたいと思います。

第十一組 長安寺門徒 野畠 正應

宗祖御遠忌法要が真宗本廟において厳修され、私もご縁をいただ  
き、五月一十日の遅夜法要に参拝することができました。京都へ向  
かうバスの中では、法要の次第・内容と、「正信偈」真四句目下の  
唱和などの説明があり、大変勉強になりました。

真宗本廟に到着し、平成の大修復を終えて威容が整った御影堂の正面より入堂し、御真影前で拝礼し席に着いた時は、「宗祖としての親鸞聖人に遇う」の基本理念を思い出し、緊張で胸がいっぱいの思いでした。

定刻に「真宗宗歌」が始まり、門首表百・宗務総長挨拶（印刷物が配布され難聴の私には有難いこと）があり、「正信偈」が真四句目下でお勤めされ、小声で唱和しました。恩徳讃の唱和は、まさに恩徳を感じるひと時であり、五十年に一度の法要にお逢いできた感激に浸る参拝がありました。

第十三組 光榮寺門徒 入江 ふみ

昨年、御遠忌法要に参拝させていただくことが決まってから、この日をどんなに待っていたことでしょうか。出発の当日は天候にも恵まれ、バスの中では事前学習会で習ったお勤めのビデオを皆で見て、気分も高まりながら、東本願寺に到着しました。親鸞さまにお



富山教務所 竹本 雅代

三月十九日から始まつた被災者支援の「つどい」・「宗祖御遠忌法要」が、五月二十八日をもつて終了致しました。

御遠忌直前の三月十一日に東北地方太平洋沖地震が発生し、「被災者支援のつどい」ということで始まり、期間中の特別人事で宗務所職員として、本山で「つどい」・「御遠忌法要」に関わることとなりました。

正直なところ、教務所の職員となるまでの私には、本山は全くご縁のない場所で、二年前、何も知らない私に何ができるのか不安な気持ちで、教務所の仕事が始まりました。震災で御遠忌の在り方が大きく変わったことにより、さらに複雑な思いを持ちながら法要を迎えるました。ですが、いろいろな方々に助けてもらいながら学ぶ機会をいただき、何とか無事終えることができました。そして、人の出遇いとつながりの大切さを改めて問い合わせす場ともなりました。

参りし、全国から集まつた同行の方と共に勤めさせていただき、  
共に恩徳讚を唱和させていただいたこの日を一生忘れる事はない、  
でしょう。

思えば今から五十年前の昭和三十六年、七百回御遠忌法要にお参りさせていただいた時は、泊・入善の駅から千二百人の団体で臨時列車に乗り、京都に向かったのを覚えています。若い時からお寺さんにお参りさせていただく御縁をいただき、あれから随分長い時間が経ちました。八十二歳になつて、一度目の御遠忌にお参りをさせてもらえたことに大変感謝しております。

## 子ども御遠忌 しんらんさまに遇う

—富山教区からも団体参拝—

五月三日・四日

五月四日に真宗本廟において、「子ども御遠忌 しんらんさまに遇う」が開催されました。

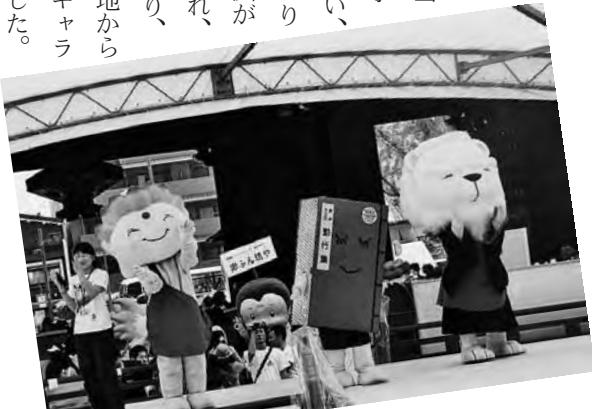
青少幼年教化小委員会は、富山教区の未来を担う子どもたちに参加を呼び掛けるべく団体参拝を企画し、幼児一名・小学生十四名・中学生二名・保護者とスタッフ十四名の計三十一名での上山となりました。

団体参拝は、五月三日に行われた「東本願寺d eナイト」に参加するため、一泊二日の日程で実施されました。その「東本願寺d eナイト」では、普段は歩くことのできない真っ暗な諸殿を歩き、子どもたちも興奮した様子でした。また、「XUXU（シュシュ）」というアカペラグループのミニコンサートもあり、御影堂に響き渡る歌声に耳を傾けていました。

四日の「子ども御遠忌」当日は、約10,000人の子どもたちが全国各地より集い、御影堂で「正信偈」が勤まりました。午後からは、白洲が各教区や関係団体に解放され、子どもたちは各ブースを回り、遊びました。また、近隣各地からやって来た約四十体のゆるキャラが会場を盛り上げてくれました。

白洲中を駆けまわった子どもたちは帰りの電車ではぐつすりと寝ており、無事、富山に帰ることができました。

富山教務所 岩松知也



## 各組宗祖親鸞聖人に遇うつどい —門徒と寺「呼応の場」の願い—

教区御遠忌讚仰事業

### パネル展「富山藩の廢仏毀釈と民衆の念仏」

三月～五月の宗祖親鸞聖人七百五十

を決めブースが設置されました。また

回御遠忌法要の期間中に、阿弥陀堂の御修復素屋根を利用して、全国十七教区が、教区御遠忌讚仰事業としてパネルなどの展示を行いました。主に素屋

回御遠忌法要の期間中に、阿弥陀堂の同時期に阿弥陀堂素屋根では、御修復のあゆみ展、御遠忌テーマ表現アート展、旧梵鐘なども展示されていました。

根の二～三階部分に四十畳ほどずつのスペースを使い、各教区ごとにテーマ

富山教区は、素屋根二階の御影堂寄りのブースで、これまで取り組んできました。

富山教区は、素屋根二階の御影堂寄りのブースで、これまで取り組んできました。

これは、教区団体参拝に参加された方を対象に、宗祖親鸞聖人の著わされた「正信偈」を通して、この御遠忌で教化専門部会では、この指針を受け、各組において、聞法と語らいの場「宗祖親鸞聖人に遇うつどい」が、団体参拝の前後に各一回ずつ開かれました。

御遠忌のテーマは「今、いのちがあなたを生きている」ですが、同時に

「門徒と寺のつながりを考える—宗祖御遠忌を機縁として」。御遠忌をお迎えするにあたり、教区御遠忌委員会が、教区御遠忌讚仰事業としてパネルなどを展示を行いました。

これは、教区団体参拝に参加された方を対象に、宗祖親鸞聖人の著わされた「正信偈」を通して、この御遠忌で教化専門部会では、この指針を受け、各組において、聞法と語らいの場「宗祖親鸞聖人に遇うつどい」が、団体参拝の前後に各一回ずつ開かれました。

た事業のパネル展示を行いました。

示しました。

このパネル展示の企画にあつては、

二〇〇八年に厳修された教区・別院の開講座の実行委員が中心となり企画立案を行いました。展示内容のベースには、同法要の記念出版として発刊された『振起』とその年表を使い、パネル展示の表題は「振起」の副題「廢仏毀釈—富山藩の廢仏毀釈と民衆の念佛」を用いました。

展示の大部分を占める年表は、大きな一続きのものを作成しました。この年表は明治四年におこなわれた富山藩の廢仏毀釈を中心軸としながら、一五八〇年の石山合戦から一九九九年の高木顯明氏の処分取り消しまでを記載しました。また年表が見やすくなるように、国家と大谷派に関わることは赤字で、富山に関わるものは青字で、富山に關わるものは青字で強調しました。そして、この年表の上部に、年表と対応できるよう番号を振った解説付きの写真を展



「宗祖としての親鸞に遇う」が基本理念として掲げられています。

では、「宗祖としての親鸞聖人に遇う」とはどういうことなのでしょうか。

それは、親鸞聖人が願われた世界にふれていく、出遭われた世界に出遭つていくことに他なりません。そして、その世界に頷くことがあるならば、私もまたその世界を願つていこうという、私の人生に対する道筋が定まっていくのではないでしょうか。

近年、宗教離れということが言われますが、そのことの一番大きな問題は、

世界観の喪失だと思います。真に願うべき世界が見いだせないということが、私の、そして社会全体の混迷を深めているのでしょう。願う世界のないところには、決して確固とした歩みは生まれないのです。

真宗門徒として、宗祖親鸞聖人が願われた世界にふれる。念佛の教えを聞くということは、実に私自身の願いを聞いていくことに他ならないのだと思います。

各組から選出いただいた講師の方々の道心が、親鸞聖人の残してくださった言葉を通して語られていく。浄土と

いう世界が尋ねられていく。この御遠忌を勝縁として、聞法の場に身を運んでいただき、親鸞聖人の世界を尋ねていただきました。

道心が道心を呼び起こすことがあります。講師の方々の道心と門徒の方々の道心が互いに呼応しあっていき場が開かれ、そして、つながつていく。今回の各組での「つどい」と、「つどい」開催までの取り組みが、この場を開く大きな機縁になつてほしいと願っています。

第十三組 蓮通寺 河村 浩



## 教報『如大地』研修旅行レポート

### 首都圏視察～東京教区で感じたこと～

二〇一一年二月十六日～十七日

二〇〇九年六月十一日に開催された「首都圏開教に理解を求めるための懇談会」を『如大地』に掲載したことを縁として、現在の首都圏の状況が一体どうになっているのかということが、如大地編集委員会で話題となりました。

そこで、実際に自分達で見聞きし、肌で感じることが一番あるといふことで、二月十六日から一泊二日の日程で、「山谷炊き出し」と「池袋親鸞講座」への参加、「首都圏開教所」の視察などを行いました。

《『如大地』編集委員会》

#### ■ボランティア活動に参加 首都圏の現実に向き合うこと

視察旅行一日目、私たちは東京山谷での炊き出しに参加しました。当日は「東京教区同朋社会推進ネットワーク」と「いし・かわら・つぶて舎」の二つの団体の活動を行われました。

まず、浅草の専勝寺本堂を会場に、「同朋社会推進ネットワーク」主催による「グレープホームふうせん」のスタッフKさんの講演を拝聴しました。

Kさんは女性で、ご自身も元ホームレスでしたが、今はヘルパーの資格を取り、このグループホームの代表として、高齢の女性たちを介護しつつ活動をされています。講演では、往時の厳しい生活と社会復帰の困難さについて話されました。

その後、私たちは三〇人近くのスタッフとともに、駐車場で七〇〇人分の豚汁を作りました。

「同朋社会推進ネットワーク」は、二〇〇四年の新潟県中越地震を契機と

して炊き出し用の大なべを購入し、さまざまなお手伝い活動をされています。この冬は十二月から二月にかけて三回、山谷での味噌汁、豚汁の炊き出しをされていました。また、東日本大震災の発生に伴い、三月からは宮城县、岩手県に何度も足を運び、炊き出しに活躍されています。

続いて真宗仏光寺派東京別院に移動し、「いし・かわら・つぶて舎」の打ち合わせに参加しました。「いし・かわら・つぶて舎」は一九八〇年代に梶大介氏を中心に設立されました。当日は宗教、宗派を越えた一〇名あまりの方々が参加され、それぞれの主体性を尊重じることをルールとする活動の一端に触れることができました。全国から寄せられた支援金により、十二月か

ら二月にかけて計十一回、弁当とお茶を毎回約八〇〇食、配布しています。また、衣類や毛布の配布もされています。

正午から、私たちは山谷の玉姫公園に移動し、集まつた人々に弁当の配布を行いました。公園のまわりを整然と一周していた七〇〇人余りの行列は、弁当・お茶・「ネットワーク」が作った豚汁を受け取られ、炊き出しは終わりました。



専勝寺での豚汁作り。手際がいいです。



「いし・かわら・つぶて舎」の打ち合わせをしています。  
如大地メンバーは、お弁当を手渡す係になりました。

ホームレス支援に参加されている方々がそれぞれどのような思いを持っているのか、残念ながらお聞きする時間はありませんでした。しかし、目の前にある貧困・現実から目をそらすわけにはいかないというお気持ちが行動となつ

ているのだろうと、強く感じました。

(石川正穂)



配ったお弁当は、こんな感じ。

### ■都会の真ん中での池袋親鸞講座

一日目の午後六時三十分からは、真宗会館主催による「池袋親鸞講座」に参加しました。会場は池袋駅に隣接する池袋ステーションコンファレンス（池袋メトロポリタンプラザ十二階）で、会社帰りのサラリーマンでも参加しやすいように配慮されています。今期（二〇一〇年度）は昨年七月から八回にわたって開催され、私達が参加したのは最終回となる第八回の講座でした。第一回に比べると参加者は少なくなったということでしたが、約五十人が聴講し、若い人の姿も見うけられました。

今回のテーマは「ほんとうの幸せとはなにか？」でした。講師の武田定光氏（真宗大谷派東京教区教学館主幹）の話によると、章立てて講座を進めるのではなく、全八回のどの回からでも受講いただけるように、各回毎にテーマを設けているということでした。講義では橋爪大三郎氏やバートランド・ラッセル氏などの考えも紹介しながら、「親鸞は『幸せ』ということにはこだわっていない。仏教の目的は迷いを越えていくことである」と述べられました。

この講座で面白いと感じた一つに、アンケートがあります。こまかく項目があるのではなく、A4の紙に「本日の講座へのご意見・ご感想・ご質問をお書きください」と書いてあるだけなのですが、これを書いて帰りに提出すると、次の講座のときに講師の回答がプリントされ、参加者に配布されるようになっています。今回も講義のレジュメとともに、「一月池袋親鸞講座の質問に答えて」という、前回の講座で

回など、過去のものも受付でもらえるようになっています。

「池袋親鸞講座」の視察を終えて、富山教区でも様々な行事を開催していますが、「どうしたらもっとよくなるか」という工夫をすることもすごく大事だと感じました。

(土肥秀文)



池袋親鸞講座 講義中の武田氏

### ■開教所を訪問

今回の首都圏研修の目的の一つに、開教所訪問があります。二日目は千葉県の二箇所の開教所（内、一箇所は寺院として活動中）を訪問させていただきました。その二箇所は、東京教区千葉組の松戸にある勝尾圭三氏が住職を勤める「恵光寺（元恵光寺教会）」と、流山にある不二門至淨氏が代表を務める「流山開教所」です。

お二人の方が、それぞれの場を聞法

の道場として大切に生きておられる姿に出あいました。始められた時期や場所は違いますが、それぞれに苦労があったことをお聞きしました。時代背景により、宗教に対する風当たりの強いときの苦労や、経済活動の中で道場を維持していくことの難しさなどがあります。それぞれその場所で道場を開かれ、私たちが当然のように思っている一緒に聞法下さるご門徒は一人もないところからのスタートです。



二階の一部が恵光寺。副住職は、山谷での炊き出しにも参加されていました。

首都圏で真宗会館、お寺や開教所とつながりを持たれている真宗門徒割合は、ごく僅かだと言われています。かつて北陸から多くの人が関東に移り住み、今現在も、関東地方に就職などで住んでおられるご門徒も多いと思します。このような都市への人口増加がありにも大きな流れであるのかもし

れないが、その方々に声をかけるといふことがどこまでなされてきたのか。開教所の方々の苦労を通して、自分の責任を感じずにはいられません。



流山開教所は、普通の住宅のような建物でした。不二門代表も、山谷での焼き出しに参加されました。

### ■首都圏視察を終えて

東京教区の大谷派率（大谷派寺院数÷宗教法人数）は、僅か一・三%。でも、そこで出会った人達の目は、み

（見義智証）

こういった証明書が必要なほど、首都圏での宗教事情には難しさがある。また、大谷派（東本願寺）と言つてもほとんど通用しないことを難しくしている。



谷真澄さん（七月現在、現地復興支援センター主任）に案内をしていただきました。その間、首都圏の状況について

別の人に引き継いでもらいたい。そのためにも、私はこの場所がしっかりとしたものになるよう頑張りたい」という言葉でした。今回の視察は、富山教区内の私達にとって、学ぶべき点がたくさんあったように思いました。

一日目、二日目ともに真宗会館の清谷真澄さん（七月現在、現地復興支援センター主任）に案内をしていただきました。その間、首都圏の状況について

てなど、いろいろなお話をすることができたのもすごくよかったです。

大事なことは、今回の視察を「記事にしておしまい」にしないこと。首都

圏の現況を見て、今後にどう生かすかが一番の課題であり、難しいところであります。そして今回の視察をきっかけとして、首都圏の人達と何か連携した「取り組み」ができるなら、すばらしいと思いました。

## 二〇一年度法語ポスター

二〇一年度法語ポスターを発行

いたしました。  
今回は、自主学習会「初地の会」で書道練習をされている皆さんに、筆耕をお願いしました。

生が終わって  
死が始まるのはない  
生が終われば  
死もまた終わるのである

寺山修司氏

明日の目的のために  
生きているのではない  
今日が全部だ

安田理深氏

かけがえのない  
自分の人生を  
そのまま受け取れない  
自分がいる

（順不同・敬称略）

如來の名を称うるには  
如來の名告りを  
聞くのである

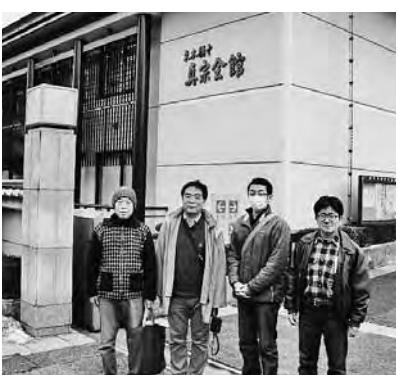
一階堂行邦氏

如來の名を称うるには  
如來の名告りを  
聞くのである

金子大榮氏

救われるというの  
じつは  
私が見いだされるとのこと

老病死を見て  
世の非常を悟る  
『仏説無量寿經 上』



真宗会館に宿泊しました。  
東京の練馬区にあります。

## 遺族の側から見た葬儀 ワールドカフェ方式の座談を体験



寺族研修小委員会では、昨年度に引き続き「現代宗教における葬儀の意義を考える」をテーマに取り組んでいるが、今年度は「遺族の側から見た葬儀」死と向き合う場としての葬儀（仏事）を考える」をテーマに、去る二月二十四日、自殺遺族の心のケアに取り組む「Live on」代表の尾角光美さんをお招きし、住職総合研修を開催した。

石川正穂氏（寺族研修小委員会委員）

の発題に始まり、続いて尾角さんの講義では、母親の自殺体験から家族との死別についてその思いを話された。自身の体験を包み隠さず淡々と話さ

れる尾角さんは、何か力強さを感じた。母親の自死から時間はたつていればいえ、大変な苦労をされてきたと講義を聞いて思った。

講義の後、少人数に分かれて各テーブルで自由に対話しながら話を発展させていくワールドカフェを行った。一つ目のテーマは「葬儀の意義」、二つ目のテーマは「葬儀にとって最高の葬儀とは」について話し合われた。

日頃、葬儀に携わっていながら、改めて葬儀の意義を問われると戸惑いながらも、他の人達からは色々な意見を聞くことが出来た。その場で人の話を聞くことの難しさが良くわかった。

限られた短い時間の中での話し合いだったので、あつという間に時間が過ぎてしまったと言うのが感想で、初めての体験となつたワールドカフェ方式の座談には新鮮さを感じた。

尾角さんは、人の話を聞くことの大切さを強く語られた。講義を通じて、自分は果たして聞けているのだろうか、と考えさせられた。

## 声明作法講習会　主催 富山教区准堂衆会

### －宗祖御遠忌法要の装束の着付けの仕方を学習－



お迎えして、袍裳及び七条袈裟の着付けなどの講習が行われた。このたびの講習会は、以前より装束作法の学習の場の要望が多く寄せられたことからの開催でもあった。

講習では一人にモデルになっていた

だき、表袴・袍裳・七条袈裟の着付けの実技を行い、その後、参加者全員が、互いに七条袈裟の着付けを行った。また、その他にも修多羅のエビの作り方、桧扇のさばきかた等々、大変参考になる学びの場となつた。

僧侶は、念佛の教えを聴聞していく姿勢が備わるとともに、勤行・装束作法・所作を習得することが求められると思う。ところが現実は、声明作法と聴聞の両立が難しく、声明は声明、教學は教學と、別々のグループになつているのではないかと感じることさえある。

今回のような講習会を機会に、日頃当たり前のようにしていることがこれでよいのか、また疑問に思つていてこと等、一つでも学べることがあればよいと思つた。

富山教区准堂衆会会長 和田 度

富山教区准堂衆会は、准堂衆の相互連絡や教区内の声明にかかる人材育成、教区内声明講習会への講師派遣など、教区内の声明作法の取り組みの活性化を図るために、昨年度、立ち上げられた。

去る三月一日、富山教区准堂衆会が主催し、声明作法講習会が富山別院本堂で開催された。今回は宗祖御遠忌法要における装束作法について学習すべく、講師に本廟部堂衆の松村大栄師を

## 得度研修会 講義と声明練習、得度考査

### —僧侶として生きるとは、僧侶の使命とは—

去る三月三十日(水)～二十一日(木)、大人と子どもを分けて行ない、講師か富山東別院会館を会場に「得度研修会」が開催された。今年度は子供十一名、大人九名の計二十名と例年になく多くの参加となつた。

オリエンテーションを兼ねた講義では大人と子どもに分かれ、それぞれの講師から得度の意義についてお話をいただいた。



子ども対象の講義では、「楽しく明るく和やかに」を合言葉に、そういう世界を求めていくことがお坊さんの使命であるとのお話しをいたいただいた。大人対象の講義では、得度をするということは自己の問題であるとともに、周囲からの目も変わるので、覚悟が求められるとのお話をいたいた。おつとめの練習においても

得度研修会は、宿泊することが基本的義務付けられている。短い時間でも共同生活をし、得度について一緒に考え方とは、参加者だけでなく講師やスタッフにとっても、現在の自分を確かめさせられる大切な機会となる。

また、帰敬式については実践運動の取り組みにより、受式の願いや意義が明文化されてきたが、得度についてきたが、得度をするといふ者が活用できるよう受式する者が考えていくための、またお伝えしていく者が活用できるような資料の不十分さが感じられる。このことへの取り組みについては、今後、課題とすべきではないだろうか。

## 「企画委員会」を新たに設置 教区教化委員会

### —教区・組の教化事業の活性化を図る—

富山教区教化委員会では、教区教化事業の活性化を図るために、今年度、新たに企画委員会を設置した。

二〇〇〇年度、正副組門徒会会长・各組同朋の会会長合同協議会で、「推進員とは何か? 何をすればいいのか?」

「住職は推進員を送り出した責任がある。住職の協力が欲しい」等の推進員に関する問題提起を背景に、今回に先立ち企画委員会が設置された。そして、アンケート調査等の実施を踏まえ、二〇〇五年に「最終報告書」が教化委員会に提出されている。

しかし、この「最終報告書」も時に流され、二〇〇八年度に教区教化委員会に提出された教区門徒会からの「門徒の教化事業等の活性化についての提言」によって改めて日の目を見るうことになり、今回の新たな企画委員会の設置となつた。

提言には「各組の同朋の会、推進員、門徒会の活動が鈍化して有名無実の観を呈しており、総上山や帰敬式受式は

忘れ去られ、条規に定めている相続講や祠堂経会は死語になりつつあります。このような中で僧侶と門徒との隔たりが増大し、二〇〇八年度富山教区教化研修計画にある運動方針と乖離するばかりであります。この状況は、現在の門徒教化事業では人々の心をつかむ事が全く出来ないことを如実に示しております。熱心な取り組みが見られないこともあって、効果は無に等しいと総括せざるを得ません。この事は心ある人により、また各組門徒会でも問題視されながらも、名案が無いとして時に流れてきたことは危機感の欠如と言え、二〇〇五年一月の企画委員会の報告が活かされ無かったものと思料されます」とあり、教区教化委員会に対する呵責の念をうかがい知ができる。閉塞した教区・組の現状を憂い、未来が開けない不安からくる怒りではないか。

教区・組に在る者は、この提言を受け止めて、これから教区教化の在り方を模索しなければならない。

## 教区会議長

### 就任のご挨拶

## 富山教務所長

### 退任のご挨拶

第十二組 照善寺　轡田　普善

この度、引き続いて教区会議長を務めさせて頂くことになりました。  
これまでの経験から、自らの非力さを痛感しており、不安を持ちながらお受けいたしました。

教区内各位のご尽力により宗祖御遠忌への取り組みがなされました。教区・別院の御遠忌法要への取り組み、それに向けた教化の充実、教区改編問題への対応など課題は山積しています。何卒、宜しくお願い申し上げます。

長崎教区 第二組 相善寺　相良　晴美

このたび、六月三十日付をもちまして、定年退職いたしました。  
顧みれば富山教務所長兼富山別院輪番として三年間勤務させていただき、この富山の地が、四十年余りの宗務役員としての最後の勤務地となりました。

その最後の年が、東日本大震災、そして宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要と、忘れる事の出来ない年ともなりました。  
退職後は、自坊にて、一僧侶として再出発させていただきたいと思っております。  
多くの皆様の支えにより、役務を終えましたが、ここに衷心より御礼申し上げ、離任のご挨拶とさせていただきます。

内村 浩司	善享 第九組	尊光寺
轡川 上田	眞利 達	乘善寺
轡田 淳利	眞正 達	西源寺
渕上 安部	普善 一知	照善寺
鈴木 英憲	第十二組 第十三組	稱永寺
	淨慶寺	本傳寺
	陽	真淨寺

組長  
(任期 二〇一〇年十二月一日～二〇一四年三月三十日)  
第九組 藤岳 貴之 本覺寺  
第十組 犬島 孝昭 正覺寺  
第十一組 松岩 公辰 正恩寺  
第十二組 藤田 薫 勝樂寺  
第十三組 河村 智明 勝勝寺

副組長  
(任期 二〇一〇年十二月一日～二〇一四年三月三十日)  
第九組 五十嵐淨和 中堂寺  
第十組 源 大寿 西光寺  
第十一組 福井 修 永福寺  
第十二組 池原 佐伯 真宗維  
第十三組 新田 了眞 正源寺  
林 順雄 淳 長圓寺  
中山 春岳 真人 淨誓寺  
了眞 本龍寺 圓林寺  
祐教寺  
長寶寺

## 教区役職者の改選

### 教区会議長

教区会正副議長  
議長　藤岳 貴之  
副議長　渕上 一知

教区会参事会員  
藤田 薫　轡田　普善  
(補充員) ① 蟹川 達 ② 安部 英憲  
教区監事(教区住職より一名)  
北條 秀樹(第十二組 常徳寺)

## 住職就任

二〇一〇年十二月二十八日

第十三組 光照寺　藤條 法彰氏

選出教区会議員  
(任期 二〇一〇年十二月二十四日～二〇一四年四月三十日)  
第十三組 善念寺　下坂 孝範氏

## 教 師 補 任

一〇一年一月二十一日

第十一組 常念寺

松田

雅秋 氏

一〇一年三月五日

第十二組 圓乘寺

清原

護 氏

一〇一年三月十一日

第十一組 淨誓寺

福井

要 氏

一〇一年三月十五日

第十一組 本廣寺

神保

良和 氏

一〇一年三月十八日

第十一組 玉永寺

石川

慧 氏

一〇一年三月十八日

第十一組 光明寺

尾山

征一郎 氏

一〇一年三月十八日

第十二組 常願寺

波房

聖仁 氏

一〇一年三月十八日

第十三組 長願寺

梅澤

和寿 氏

## 得 度 式 受 式

富山教務所長 相良 晴美  
富山別院輪番

定年により役務を免ずる

二〇一年六月三十日発令

## 教 化 日 誌

(一〇一年一月一日～二〇〇六年六月三十日)

25日

割当審議委員会  
富山県大谷派教誨師会

3月

1日 教区解放協議会・あいあう会定期学習会  
2日 声明作法講習会(主催 教区准堂衆会)  
3日 富山高岡教区教區會議員懇談会  
31日 (高岡教区担当番)

1月

13日 教区門徒会臨時会  
14日 教区宗祖御遠忌委員会総会・部会  
15日 青少年教化を考えるつどい・青少年のつどいスタッフ会  
16日 青少年のつどい(梅池高原)  
17日 教区宗祖御遠忌委員会(第一回)  
18日 秋安居  
19日 【本多弘之氏(親鸞仏教センター所長)】  
20日 富山別院院議会  
21日 第十一組組会・組門徒会  
22日 共学研修会  
23日 教区坊守会報恩講【相良晴美氏】  
24日 第九組組会  
25日 第十組組会  
31日 参事会・常任委員会合同会議

2月

1日 第十二組組会  
2日 北陸連区正副議長会  
3日 企画委員会(第二回)  
7日 共学研修会  
8日 第十二組組門徒会  
9日 全国正副議長会  
10日 第十組組門徒会  
11日 教区坊守会聲明講習会【柴田拓哉氏】  
12日 第十三組組会  
13日 【如大解】研修旅行(首都圏方面)  
14日 昆布ロード・解放・あいあう定例学習会  
15日 若坊守研修会  
16日 住職総合研修【尾角光美氏(Live on)】

3月

1日 第十二組組会  
2日 北陸連区正副議長会  
3日 企画委員会(第二回)  
7日 共学研修会  
8日 第十二組組門徒会  
9日 全国正副議長会  
10日 第十組組門徒会  
11日 教区坊守会声明講習会【柴田拓哉氏】  
12日 第十三組組会  
13日 【如大解】研修旅行(首都圏方面)  
14日 昆布ロード・解放・あいあう定例学習会  
15日 若坊守研修会  
16日 住職総合研修【尾角光美氏(Live on)】

4月

1日 第十二組組会  
2日 北陸連区正副議長会  
3日 企画委員会(第二回)  
7日 共学研修会  
8日 第十二組組門徒会  
9日 全国正副議長会  
10日 第十組組門徒会  
11日 教区坊守会声明講習会【柴田拓哉氏】  
12日 第十三組組会  
13日 【如大解】研修旅行(首都圏方面)  
14日 昆布ロード・解放・あいあう定例学習会  
15日 若坊守研修会  
16日 住職総合研修【尾角光美氏(Live on)】

5月

1日 第十二組組会  
2日 北陸連区正副議長会  
3日 企画委員会(第二回)  
7日 共学研修会  
8日 第十二組組門徒会  
9日 全国正副議長会  
10日 第十組組門徒会  
11日 教区坊守会声明講習会【柴田拓哉氏】  
12日 第十三組組会  
13日 【如大解】研修旅行(首都圏方面)  
14日 昆布ロード・解放・あいあう定例学習会  
15日 若坊守研修会  
16日 住職総合研修【尾角光美氏(Live on)】

6月

1日 第十二組組会  
2日 北陸連区正副議長会  
3日 企画委員会(第二回)  
7日 共学研修会  
8日 第十二組組門徒会  
9日 全国正副議長会  
10日 第十組組門徒会  
11日 教区坊守会声明講習会【柴田拓哉氏】  
12日 第十三組組会  
13日 【如大解】研修旅行(首都圏方面)  
14日 昆布ロード・解放・あいあう定例学習会  
15日 若坊守研修会  
16日 住職総合研修【尾角光美氏(Live on)】

## 編集後記

いよいよ五十年後には、現在十代二十代の人達が六十代七十代になっている。五百回御遠忌をお迎えする。気が早いと思われるこの世代は、仏教に関心を持っている」という話を最近よく聞く。世の中の変化により、「僧侶の世襲」ということが難しくなってきているのかもしれない。五十年後、寺院はかなり減少しているのではないだろうか。

また、「寺の跡継ぎがいなくて困っている」という話を最近よく聞く。参拝するのだろうか。

世の中の変化により、「僧侶の世襲」ということが難しくなってきているのかもしれない。五十年後、寺院はかなり減少しているのではないだろうか。

「どうしたら若い人達にも仏教に関心を持つてもらえるか」ということを考えなくてはいけない。そして「僧侶の世襲」についても、いろいろ議論していく必要があると思う。

「どうしたら若い人達にも仏教に関心を持つてもらえるか」ということを考えなくてはいけない。そして「僧侶の世襲」についても、いろいろ議論していく必要があると思う。

第一組 称念寺 土肥 秀文